

ヘモフィルス・ソムナス感染症

病性鑑定課

本病は *Histophilus somni* 菌の感染により引き起こされる牛の伝染性敗血症性疾患であり、移動後の肥育若牛に好発します。病牛は 40 前後の発熱とともに沈鬱、起立不能、眼球振盪、後弓反張等の重篤な神経症状を示した後、多くは発病 1~2 日後に昏睡状態に陥り死亡します。病牛の脳を含む全身諸臓器に多発性化膿性病変が観察され、脳、脳脊髄液、心臓等のさまざまな臓器から起因菌が分離されます。

2005 年 1 月に県南地域の 1 黒毛和種肥育農場で市場より購入した子牛に本病が発生し、同ワクチン未接種の 11 か月齢の子牛 7 頭中 3 頭が死亡しましたが、ワクチン歴のある子牛 8 頭に異常は観察されませんでした。本病が移動後の肥育若牛に好発することおよび予防にワクチンが有効であることを示す事例と思われます。ワクチンは 3~4 週間間隔で 2 回接種する必要があります。市場から購入した子牛の同ワクチン接種歴を確認して、未接種牛には 2 回接種、1 回接種牛には購入後に再接種します。

岩手の畜産第 456 号(平成 17 年 8 月 1 日発行)に掲載